

教育・保育提供区域の設定例

設定例	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
教育・保育提供区域	小学校区	中学校区	一定の人口規模となる小学校区の組合せ	一定の人口規模となる中学校区の組合せ	施設まで一定の距離に納まる地域	福祉区	行政区
区域数	89	36	30	24	20程度	6	4
特性	日常の生活圏に近く、子どもの通学などで、保護者や住民が身近に感じられる。また、安全・安心ネットワーク活動や町内会・婦人会・老人クラブ・消防団などの多くが地域活動の単位としている。	岡山市では、学びの連続性を確保するため、中学校区を単位に「岡山型一貫教育」に取り組んでいる。また、地域づくりの推進や地域協働学校など、より広域的な住民活動の単位となっている。	地域ごとの教育・保育ニーズや合併の経緯などから、施設の多寡や偏在が見られる小学校区があるため、近接する小学校区を組合せることにより、就学前の子どもの人数が一定数(1,000～2,000人程度)となる区域を設定する。	地域ごとの教育・保育ニーズや合併の経緯などから、施設の多寡や偏在が見られる中学校区があるため、近接する中学校区を組合せることにより、就学前の子どもの人数が一定数(1,000～2,000人程度)となる区域を設定する。	居住地から施設までの距離がほぼ同程度になるよう、一定の区域(半径3キロなど)を設定する。	福祉事務所が管轄する地域で、6区がある。福祉区ごとに、保育園への入園手続きを担当しており、また、保健・福祉関係の組織や団体などの活動の単位となっている。	政令指定都市として、条例で設けているもので、4区(北、中、東、南)がある。
就学前の子どもの人口(人)	最大 芳泉 1,441	最大 御南 2,571	最大 大元・鹿田 2,457	最大 桑田 2,457		最大 北区中央福祉事務所 10,906	最大 北区 16,086
	最小 大宮 19	最小 建部 186	最小 大宮・太伯・幸島・朝日 294	最小 御津・建部 533		最小 南区西福祉事務所 3,673	最小 東区 4,813
			(※詳細は資料11のとおり)	(※詳細は資料10－1のとおり)			
区域内の施設数	最大 岡山中央 10(休園を除く)	最大 岡山中央 10(休園を除く)	最大 開成・政田・西大寺南・西大寺・豊・雄神 13	最大 西大寺・上南・山南 18		最大 北区中央福祉事務所 50	最大 北区 87
	最小 五城、城東台 0(休園を含む)	最小 富山 2	最小 第一～第三藤田 3	最小 桑田、福浜 4		最小 南区西福祉事務所 18	最小 東区 38
区域を単位とする施設	児童クラブ、学区町内会、コミュニティハウス	地域協働学校、公民館	特になし	特になし	特になし	福祉事務所、ふれあいセンター	区役所
長所	日常生活や地域活動の単位としてまとまりがあり、小学校への連続性が図られる。	岡山型一貫教育や広域的な地域活動の単位などとして、一定のまとまりがある。全校区に2園以上の施設があり、住宅団地の造成などによるニーズ増や、新たな道路整備などによる他の校区からの流入に比較的对応しやすい。	単一の小学校区を区域とする場合の短所面をやや緩和できる。	単一の中学校区を区域とする場合の短所面をやや緩和できる。	施設までの距離については、一定の公平性が確保できる。	行政による福祉サービスの単位として、福祉事務所を中心に日常的なまとまりがある。区域が広く、施設数も多いことから、住宅団地の造成などによるニーズ増や、新たな道路整備などのよる他の校区からの流入に比較的对応しやすい。	行政の単位として、区役所を中心に日常的なまとまりがある。区域が広く、施設数も多いことから、住宅団地の造成などによるニーズ増や、新たな道路整備などのよる他の校区からの流入に比較的对応しやすい。
短所	校区により就学前の子どもの人口差が大きく、集団を維持しにくい校区や施設がない校区もある。校区ごとの施設数が少ないことから、住宅団地の造成などによるニーズ増や、新たな道路整備などによる他の校区からの流入への対応が難しい。	区域がやや広くなり、居住地から施設までの距離が遠くなる場合がある。また、小学校区と比較すれば格差は小さいが、なお校区により就学前の子どもの人口差が大きい状況にある。	区域の拡大により、日常的な生活エリアよりやや広域となるため、居住地から施設までの距離が遠くなる場合がある。	区域の拡大により、日常的な生活エリアより広域となるため、居住地から施設までの距離が遠くなる場合が多い。	同一町内であっても分断されることがある。	区域が広く、また、福祉区ごとの面積の格差が大きいことから、それぞれを同じ単位として扱いにくい。区域として、日常的なつながりが薄く、居住地から施設までの距離の遠近差が大きい。	区域が広大で、また、行政区ごとの面積の格差が大きいことから、それぞれを同じ単位として扱いにくい。区域として、日常的なつながりが無く、居住地から施設までの距離の遠近差が大きい。